

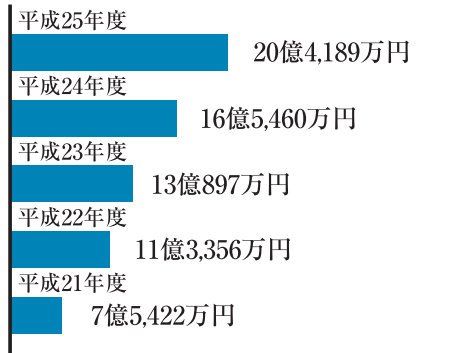


9月5日の定例会では、平成25年度9会計の決算を議長と又地議員（監査委員）を除く全員で構成する決算審査特別委員会（平野 武志委員長）を設置し、付託しました。特別委員会は8日から10日までの3日間にわたり審査を行い、11日には意見を付して全会計の決算を認定しました。

木古内町の基金と町債（過去5年）

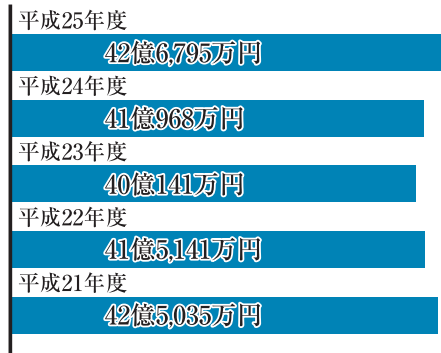
（貯金） （借入金）

●基金（貯金）残高の推移《一般会計》



※平成21年度の基金（貯金）は約7億5,422万円でしたが、4年後の25年度は約20億5,189万円となり、約3倍となっています。

●町債（借入金）残高の推移《一般会計》



※平成25年度は新幹線関連整備事業が着々と進み町債（借入金）は、約42億6,795円で、昨年度比で1億5,827万円の増となっています。

決算審査所見

平成25年度各会計決算では、人口減少や少子高齢化という課題に直面し、さらには経済状況の長期低迷により税や使用料等の収納率が改善されておらず憂慮される状況となっています。

各担当部署による懸命な対応は理解しつつも、さらなる熟考を重ね新規対策を図るとともに、町民に対する不平等感を取り除くためにも、法的手段を含め公平で公正な行政運営を行う中で財源確保に努めるよう強く求めるものです。

国においては、地方創生を最大の課題としてとらえ、人口減少対策や雇用を重視する考えが示されているものの、地方交付税の算定方法の見直しも行われていることから、今後とも充分注視し健全な財政運営を図るよう期待しています。

各企業会計においては、人口減等による影響がさらに著しくなることから、健全経営・健全運営に向け、経費節減は当然のこと更なる経営手腕が発揮されるよう望みます。

各担当部署による審査では、特に生涯学習課の数年にわたるスクールバスの中学生までの利用拡大の議論や産業経済課の各種物産展等における参加に対する成果など、事業報告や検討結果等については事前に詳細な資料提出を行うとともに、適切な報告や答弁が図られるよう期待しています。

また、事前に申し添えているにもかかわらず、各担当からの説明内容の差異や全節の読み上げなど、統一性が図られていません。特別委員会における審査の効率を上げるためにも今後、さらなる研究を図り全担当部署において共通認識を整えた上で、今後の特別委員会に反映されるよう望みます。